



「POTT(ぽっと)の過去・現在・未来」

私達は、食事時のポジショニング技術の向上により、誤嚥を予防し食べるよろこびを、多くの人へ伝えたいと願い、POTTプログラムの伝承活動をしています。

食べるよろこびを
伝え支え合う

2024
届けPOTT♡

2023
すべての人に
POTTを

2022
新たな伝承と定着
めざして

2021
もっと伝承・定着

2020
さらに伝承
深化

2019
伝承・深化
用品開発

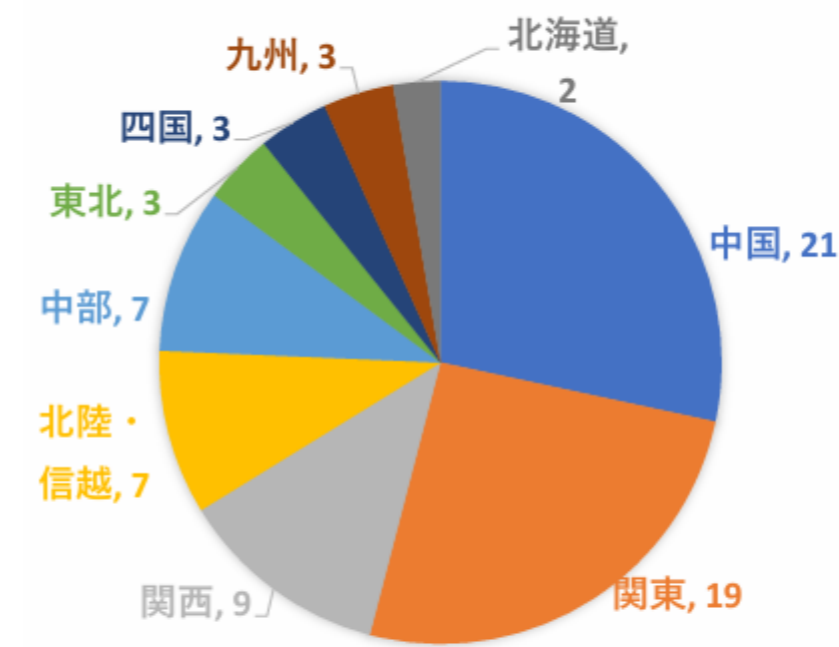
2018
プロジェクト
活動開始

~2017
実践研究
開発・伝承

2024年7月7日
POTTプロジェクト代表
迫田綾子

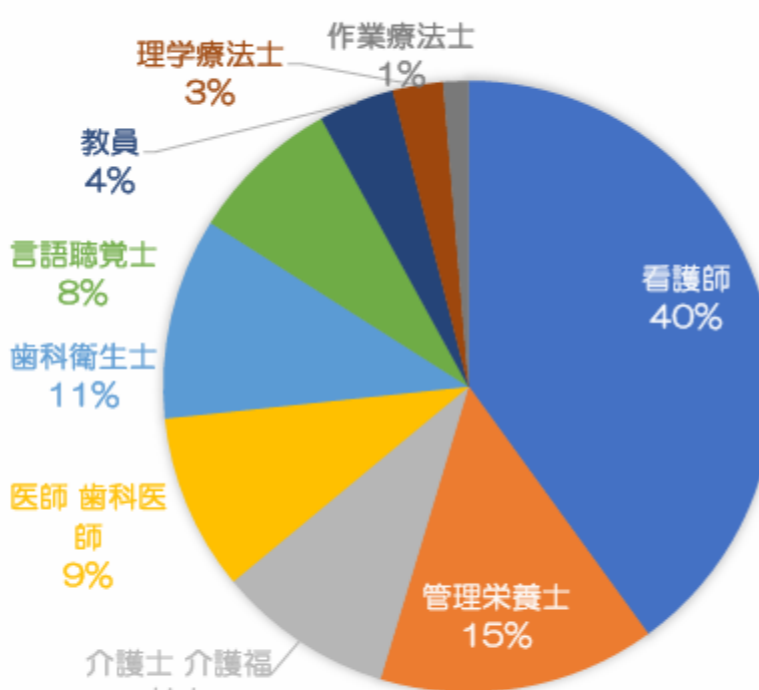
【参加者】52名

ブロック別参加者(人)



全国からのご参加、
ありがとうございます。

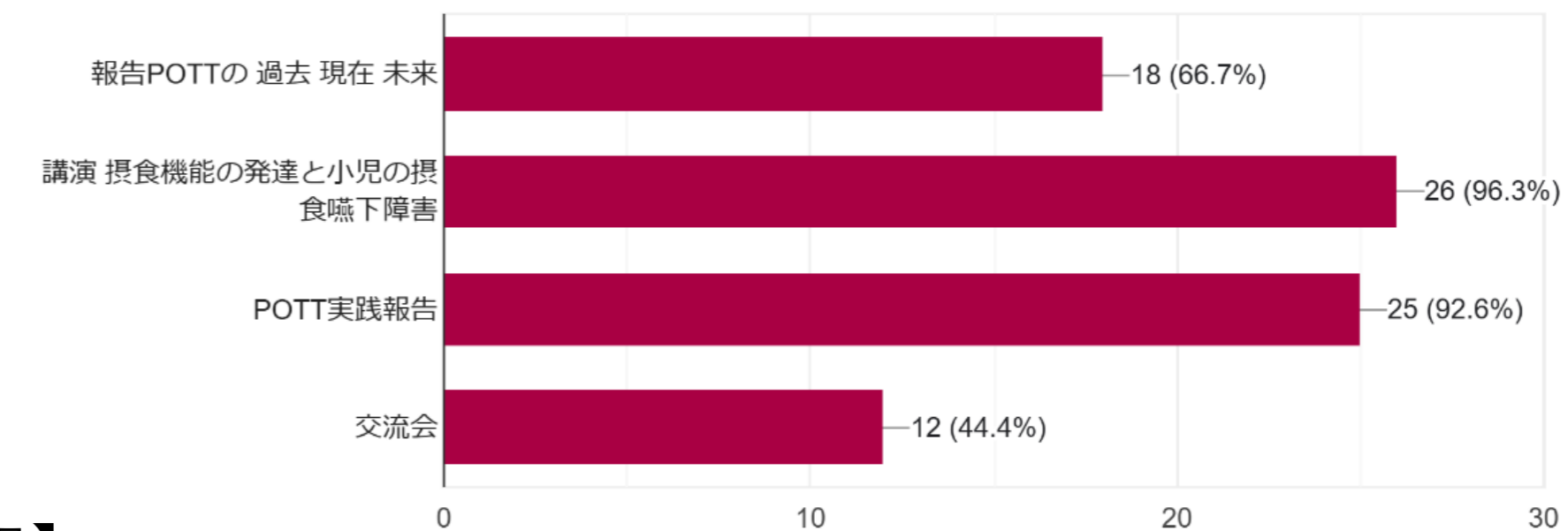
職種別参加者



多職種のご参加がありました。

【アンケート結果】28件の回答

- 1) 自施設で食べるためのポジショニングに取り組まれていますか?
<はい60.7% いいえ39.3%>
- 2) 学習会は参考になりましたか?
<はい96.4% どちらともいえない3.6%>
- 3) 参考になった内容

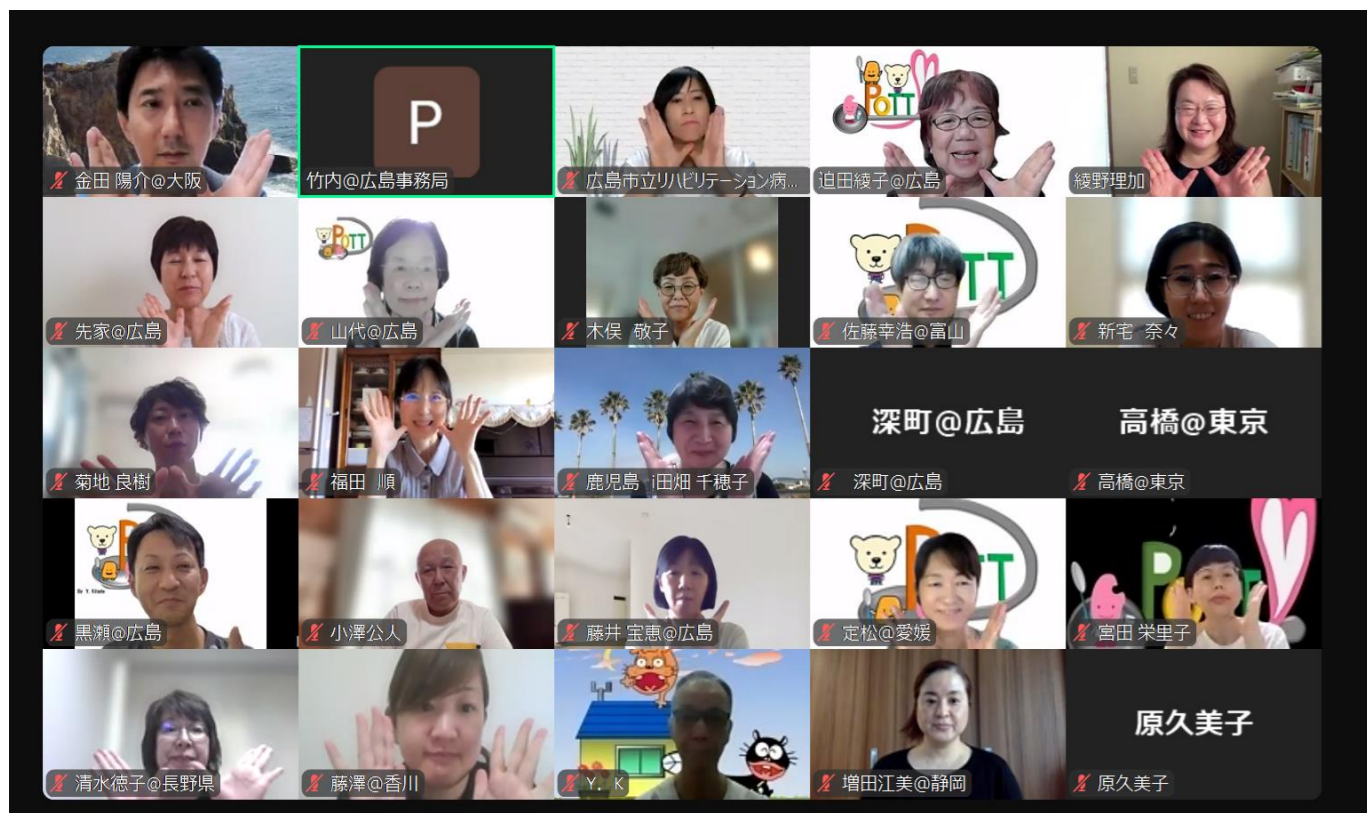


【感想】

- ・小児の摂食機能は正常な食べる機能の発達過程を知らずして支援はできない
- ・認知症の方の支援は脳の器質的変化により原始反射がみとめられることが多く食形態決定時の口の動きなどととても参考になりました。
- ・小児の具体的な嚥下、顎を押しやる意味、親の思いなど、学習の大切さを学びました。
- ・摂食嚥下機能だけでなく、心臓や呼吸との関連、運動と感覚、刺激応答、姿勢、環境が及ぼす影響など、様々な繋がりや関連性を踏まえた上で、観察力・評価を下に実践して行くことの必要性を再度認識しました
- ・とても有意義な発表の数々でした。交流会でも話がありましたが実践的に学べる場があるともっと職場でも活かせるのかなと思っています。
- ・綾野先生のお話が大変わかりやすく、小児での大切なポイントを学びました。もっとお話し聞きたかったです。
- ・実践報告ではそれぞれ良い仕組みやチームがあり素晴らしいと感じました。
- ・交流会では他の職種の方のお話聞いて刺激になりました。
- ・UIクッションの存在を初めて知りました。歯科診療にも活用できそうな興味深いです。
- ・3人の活動報告は時代の先取のようであり、POTTの重要性や効果をしっかりと表現されておられ全国大会にふさわしい発表でした。
- ・ケアの力で患者さんの人生を取り戻せることを魅せていただきました。

【プログラム】

1. 「POTTの過去・現在・未来」 迫田綾子代表
2. 特別講演「摂食機能の発達と小児の摂食嚥下障害」
—成人高齢者と異なる視点を—
講師：あやの子どもの食べること研究所 綾野理加先生
3. POTT実践・伝承報告
 - 1) POTT研修会～静岡県歯科衛生士会の取組み(静岡)
 - 2) メッセンジャーナースが取り組む鹿児島島のPOTTプロジェクト(鹿児島)
 - 3) 最も危険で大切な1ヶ月をPOTTと共に守り抜いた事例(東京)
4. オンライン交流会



まとめ

全国から多職種の方にご参加いただき、活気あふれる大会になりました。特別講演の綾野理加先生の情熱と根拠ある講義で小児の摂食嚥下の基本的理解の重要性を再認識できました。活動・実践報告の3人の方々は先進的で意味深く参考になることが沢山ありました。画面越しに笑顔を沢山いただきました。ご参加下さった皆様、ありがとうございました。